# あなたは“何で”読みますか？

## 本

2010年は、“電子書籍元年”なんて特集が雑誌やテレビで組まれましたが、もう試してみましたか？電子書籍はまだ聖学院には導入されていませんが、Amazonの「Kindle」、Appleの「iPad」、シャープの「ガラパゴス」などいろいろと騒がれているので、今後の動向が気になるところです。

歴史も古く、親しんできた「紙の本が好きっ」という人が、まだまだ多数派です。でも、本が売れない、読まれないという時代に、ケータイ小説は、“読まない”といわれる世代に読まれています。気づかないうちに、電子書籍はもう、身近な存在になっているのかもしれません…。

**聖学院大学発信　ケータイ小説　「風のバトン」登録（無料）をすると週に2回配信されます。大学のホームページへGO!!**

## 新聞

アメリカで「Kindle」が売れた理由の一つに、新聞の配信があるといわれています。寒い朝、庭先に投げ込まれた新聞を取りに行くのは嫌。でも「Kindle」なら暖かい部屋に新聞が届く…。

日本でも日本経済新聞社が電子版の朝夕刊の配信を「ガラパゴス」に向けて始めました。また新聞は買わず、ネットでニュースをチェックする人も多いようです。

聖学院なら朝日新聞社の「聞蔵（きくぞう）」がお薦めです。1879年から今日までの新聞記事をキーワードで検索できる優れもの。他にも読売新聞（明治7年～昭和45年）や日経テレコン21などのD.B.もあります。

もちろん、紙媒体の新聞も2階閲覧室にあります。過去の新聞は、新聞集成編年史や縮刷版も用意しています。その時代を紙面から読み取ることができます。

## 辞書

Yahoo!やGoogleにキーワードを入れて、検索ボタンを押せば、一瞬にして膨大なデータが出てきます。辞書を引くより、簡単に多くの情報を手に入れることができる…。でも、ちょっと待って！その情報は本当に正しいですか？

そこで、オススメしたいのが実際に出版されている辞書や事典をベースに作られたD.B.『Japan Knowledge』。出版社の枠を越え、複数のコンテンツを一度に検索することができます。

でもこのD.B.では、専門用語までは検索しきれません。そんな時は、図書館1階の参考図書のコーナーで調べるのが一番です。さまざまな分野の辞書・事典があります。

紙の辞書がいいとか、電子辞書が悪いとかではなく、どのタイミングでどの辞書（媒体）を使うかがポイント！なのです。

## 雑誌

雑誌といってもいろいろありますが、大学図書館でいう「雑誌」とは学術雑誌のことです。多くの論文や研究成果が収録された学術雑誌は、研究を進めるうえでは欠かせない存在です。

日本語の雑誌はまだあまり電子化されていませんが、『英語青年』など蔵書検索（OPAC）画面からリンクがはられていて、Web上で読める雑誌もあります。

また「CiNii（サイニイ）」なら、キーワードから論文や記事を簡単に検索できて、論文によってはWeb上でそのまま本文が表示されるので便利です。ぜひ使ってみてください。

外国雑誌は電子化がさらに進んでいます。聖学院にも「Academic Search Elite」という英語の雑誌を多数、収録したD.B.があります。学内のPCはもちろん、学外からも学内ページを経由すると利用できます。